

長期保存・長期利用保証に関する課題の整理（検討用メモ）

長期保存・長期利用保証に係る取組の現状と課題に関する第一次・第二次ヒアリング¹において示された課題を以下にまとめた。

※下線は第二次ヒアリングにおいて新たに示された課題。

（１）予算・人材の不足

- ・ヒト・カネ・スペース（デジタルの保存媒体の収蔵場所やサーバー容量）の不足。
- ・デジタル化の予算が取れても、バックアップの予算が確保できない。
- ・マイグレーション費用が確保されていない。館内の理解を進める必要がある。
- ・目まぐるしい技術面及び法制面での変化に柔軟に対応可能なよう、一貫したポリシーを保つために必要な、常勤の人材及びポストの確保が必要。
- ・担当職員に法規関係の知識が必要。
- ・アーカイブを運用面、技術面で管理できる能力をもった人材を育成し、継承していき
る体制づくりが必要。
- ・予算の確保とアーカイブに対する社会的な理解が必要。
- ・自組織で永久に保存できる仕組みがなくとも、どこかではデータが把握され、安定的にデータを管理できる体制の構築が求められる。

（２）方針・計画の不在

- ・保存方針・計画がなく、定期的なマイグレーションができていない。
- ・適切な保存及び利用に向けて、媒体変換等の保存方法の選択基準となる指針が整備されていない。

（３）データの一元的管理が困難

- ・職員が撮影した画像や、プロジェクト毎に作成された雑多なデジタルコンテンツについて、データの一元管理ができていない。
- ・どのようなファイルがあるかの可視性の担保が難しい。
- ・組織内のデータの全体像が把握できていない（プロジェクトベースのデジタル化状況の把握は困難）。
- ・コンテンツメタデータと権利情報の一元管理が必要。

（４）最適な保存方法が未確立

¹ ヒアリングを行った構成員（機関）は以下のとおり。

- ・第一次ヒアリング：国立国会図書館、国立公文書館、国立美術館、国立映画アーカイブ、東京国立博物館、国立歴史民俗博物館
- ・第二次ヒアリング：国立科学博物館、放送番組センター、日本放送協会

- ・オリジナルの忠実な再現を考えた場合、何を保存対象とするか、保存対象データをどのようにパッケージングするか、検討が必要。
- ・デジタル環境の変化に応じて、コンテンツの再現性を担保できる形式に対応する必要がある。
- ・データの規格は、その都度強い業界によって左右される傾向にある。業界動向・技術動向を見極めて対応する必要がある。
- ・古いデジタル資料に関して、再現性を担保したマイグレーション方法の確立が必要。
- ・クラウドストレージを使う場合の指針がほしい。

(5) 課題を共有・解決するためのコミュニティの不在

- ・日本語で記述された情報が少ないため、技術面等の調査のハードルが上がっている。
- ・課題を共有して一緒に解決していける国内のコミュニティがない。

(6) その他の課題、困っていることなど

- ・バージョンの読取が不能になった場合の対応。
- ・ファイルフォーマットの旧式化への対応。
- ・管理する対象データのファイルフォーマットが多様であること。
- ・多種多様で複雑な著作権、著作隣接権の処理に時間を要すること。